

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	日本 IBM の企業体制と、社員の人生観について
調査日	11 月 8 日
調査先	日本アイ・ビー・エム株式会社 理事・パートナー共創事業部長 高木泰成様
担当 CVS	加藤真帆 松野雄一郎 熊崎希美 江戸唯吹
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	1 年生 29 人、2 年生 8 人、3 年生 1 人
調査趣旨・目的	日本 IBM の高木様からお話を聞き、IBM についての知見および、これからの自分たちの生き方について考える。
調査結果	<p>今回、私は日本アイ・ビー・エム株式会社(以下IBM)の高木泰成様にお越しいただき、IBMという企業の概要に加え、高木様自身やご子息の経験を踏まえた人生における価値観や考え方についてご教示していただきました。</p> <p>IBM(International Business Machines Corporation)は、アメリカ合衆国ニューヨーク州アーモンクに本社を構える、世界的なテクノロジー企業です。現在、IBM は大きく四つの地域に分かれて事業を展開しており、全体の約 1 パーセントにあたる約 3000 人のダイレクターが企業の動きを統括しています。近年、IBM はアメリカにおける特許取得数で長年 1 位を誇っていましたが、現在は方針転換により 3 位となっています。しかし、この順位の変動は単なる後退ではなく、クラウドと AI 分野に特化した特許戦略を洗選択した結果であり、AI 技術がますます世の中に浸透する中で、IBMはこの分野において他者をリードするための積極的な姿勢を見せています。</p> <p>今回の講義では、IBMに関する情報だけでなく、高木様自身の考え方にも深く触れることができました。特に印象に残ったのは、高木様が強調された「前向きに捉える」「好きを信じて突き進む」「勝てるフィールドを選ぶ」「学ぶことを考える」といった、人生における価値観と生き方の指針です。これらは、これから就職活動を控えた私たちにとって、非常に重要な視点だと感じました。高木様が指摘されたように、日本の教育は「できない」をなくすことを目指し、いわば一元化、画一化が推奨される傾向にあります。この方法論では、多くの人が同じように能力を身につけ、無理なく物事をこなすことができます。しかし、現実には、人間は他者よりも一歩先を行こうとするものです。そのため、他者と差別化できる「違い」を持つことが重要になります。日本の教育の枠組みの中では、全ての分野で秀でることは難しいですが、自分がどこで優れているのかを見極め、その強みを伸ばすことが求められます。この「フィールドを選ぶ」という考え方は、高木様が言う通り、自分の得意な分野を見つけ、そこに集中することで、唯一無二の存在に近づくための方法論で</p>

す。その上で、ただ「得意な分野」にこだわるのではなく、どんなに困難で面倒に感じることも、その過程で得られる成長や収穫に対して前向きな態度を持つことが大切です。高木さんが言う「好きなことを信じて突き進む」という言葉には、自分の興味や情熱を追い求め、しっかりと育てていく重要性が込められています。確かに、何かを深めるためには時間や労力を要しますが、それを超えるほどの価値が得られることを信じて取り組むことが、最終的には大きな成果を生むのだと解釈しました。

今回の企業訪問を通じて、IBM という企業についての理解が深まっただけでなく、社会に出ていくうえでどのような考え方をもち、どのようなスキルを身につけていくべきかについても考えさせられました。特に「前向きに捉える」「自分を信じて進む」「フィールドを選ぶ」といった考え方は、これからの人生において重要な指針となるでしょう。私はこの貴重な学びを活かし、自分自身をさらに見つめ直し、将来の夢を実現するための糧にしたいと考えています。

※調査時の写真





高木様からお話をいただいた後、最後に集合写真を撮りました。